

学校保健通信

2017.2.5
No.480

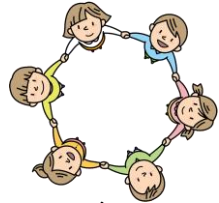
1月21日(土) 養教部総会が、15支部中13支部の代議員の出席を得て行われました。今回の会場は札幌市資料館、扉や暖炉の重厚感が素敵でした。12:30~17:00にわたって、第1号議案:2016年度活動総括、第2号議案:2017年度活動方針、第3号議案:役員選挙が審議され、原案通り承認・また立候補者は信任されました。

以下、討議の内容をかいつまんでお知らせします。

○今まで先輩に引っ張ってもらってきた。

当たり前にあるような権利もたたかって勝ちとられたことを、下の世代に伝えたい

新採用者だけでなく、10年目くらいに人も対象に働きかけたい。



組織強化拡大

○ひとりじゃないという感覚を持ってもらうためにどうサポートするか。本部からの大事だが、顔見知りの働きかけに効果がある。組合がなくなったらどうなるか。全員配布の便りなどに、組合だからこそ勝ちとってこれたさまざまな権利をもっとアピールしてほしい。

○高校に男性養護教諭が入り、これからも増えるだろう。**男性の視点での要求も**あると思うので意見の吸い上げを養教部に期待する。

○数年前に転動してすぐ **パワハラ** にあいました。本部の役員や近くの養教部の先生に相談しました。いろいろ聞いてもらって感謝です。

○とても刺激になりました。もっとずっと話をしていたかったです。仲間ってすごい!!

第26回養教部総会



札幌市資料館:1926(大正15)年に札幌控訴院として建てられた、札幌軟石を使った建物です。

○ストレスチェックでは職場から **ストレスチェックがストレス** という声もあがった。メールのやり取り自体がストレス、業者にプライバシーを渡すことへの躊躇、結果が返されるのが遅いなどの問題があったと思う。

○高ストレスで面談対象となったが、会場が遠く行きにくい。本当につらい人が面談に出向けるか、疑問に思った。30分の予定が10~20分で終了、話をしっかり聞いてもらえずに薬物療法を勧められるなど、**誠意に欠ける**と感じた。

命と健康を守る

- ・労働者のメンタルヘルス不調の未然防止
 - ・労働者自身のストレスへの気づきを促す
 - ・ストレスの原因となる職場環境改善につなげる
- 制度の目的

○趣旨は生かしたい。自分の状態を知ることが一次予防につながる。各学校の衛生委員会で、自校の結果、全道との比較などを入手し生かしてほしい。結果を受けて職場改善の責任は一義的には校長にある。

○ **運動器検診** に関する文科省調査結果が出された。当日の時間がそんなに増えていない(から負担ではない?)ということだが、事前にかなり時間を取られている。そこは調査には出ていない。脊柱以外は、小中でやっていたら高校の健

診の中でやる必要はないのかな。

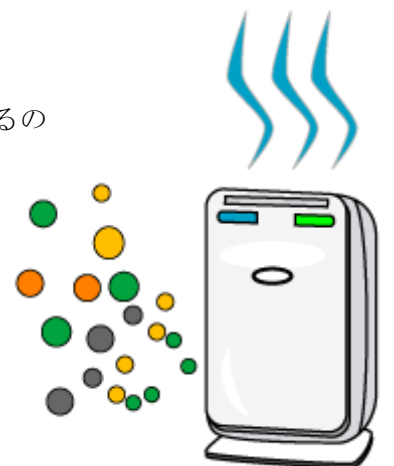
○整形外科のドクターに相談できる(きっかけを作れる)のはメリットだと思う。

○色覚に関して **アイチョークを一般化し**どこの学校でも備えているという形にしてもいいのではないかと。養教部で要求してほしい。

○時数確保が優先され、感染症流行時でも閉鎖を避ける風潮があるのではないかと。子供の健康を守ることを第一にし、道教委で閉鎖の処置をとるよう積極的に言ってほしい。

○インフルエンザの流行を抑えるのに一番効果があったのは加湿空気清浄機。流行している教室において1日じゅう作動させた。

○予防接種への自治体の補助を拡充してほしい。





新役員体制

部長 阿部佳苗（白老東高・留任）
副部長 浅見喜代美（更別農高・留任）
事務局長 小岸泉（平取高・留任）
事務局員 鈴木やよい（有朋高・留任）
 ” 佐藤恵美（滝川工高・留任）
 ” 辻美紀（新得高・新任）

○夏季休業中に免許更新講習を受ける際、定時制では一部勤務替にならず **年休で処理** した。抗議したが全道でそういう扱いになっていると言われた。

○関西では妊娠時加配が広がっている。北海道ではまだまだだが、そういう要求もあるんだと思った。

権利拡大・専門性向上

○ **複数配置は** 学級数が1減るだけでほとんど機械的にはがされている。2人の仕事を1人でやるのは大変なこと。1学級減では、生徒数も仕事の内容・量も大して変わらないので、維持してほしい。

○規定外で複数になっているところの先行きが分からない。

○道教委の姿勢をただしていくとともに、学校ぐるみの要望として運動する、データをとって突きつけるなどの作戦が必要。また「**心の健康**」加配は、関西では県に20校以上ついているところもあり、北海道でももっと要望していけるのではないかな。

○ **再任用** は制度自体が安心できるものではない。

○いま再任用で働いているので、アドバイスをいくつか。都会にいる場合そのままそこで再任用はない。個人的には、55歳で田舎に行きその地域になじみ根を張って、継続再任用で65歳までと考えるのがおすすめ。小中学校のTは支援員などになっている場合もある。

前もって計画を立てる こと。うまい話はない。再任用1年目は、前年度の税金を払うので給料は少ない。

新得高校の辻美紀です。

小規模高校勤務が長く、新得高校に21年間勤務しています。2年後に閉校するため、これからは閉校業務が加わっていきます。いろいろな特性の生徒が多く、先生方と情報交換をし、生徒の成長を感じると嬉しくなります。脳のトレーニングと恋ダンスにチャレンジ。刺激を与えています。

皆さんのお役に少しでもなるよう微力ながら頑張りたいと思います。

よろしくお願いします。



議案書・別紙資料をお読みください

別紙「子どもの健康・生活実態調査（東京都足立区）」は、第1号議案Ⅱ-1）子どもの心とからだの実態の補足資料です。詳しい内容は、足立区ホームページ内

<http://www.city.adachi.tokyo.jp/kokoro/fukushi-kenko/kenko/kodomo-kenko-chosa.html>

から見るすることができます。2015年に区内小学校1年生全員を対象にしたもので、

▲生活困難世帯では虫歯の本数が多く予防接種（自己負担なし）を受けていない割合が高い傾向がある ▲困ったときに保護者に相談できる相手がいると、子供の健康に及ぼす生活困難の影響を軽減できる可能性がある ▲子供を取り巻く家庭環境や生活習慣を変えていくことで、子供の貧困の連鎖を軽減できる可能性がある など示唆に富み、すぐには結果が出ない私たちの取り組みを励ましてくれるものでもあると感じました。議案書と合わせて、ぜひご覧ください！